

The Japan Association of Radiological Technologists

ネットワーク・ノウ

Network Now

JART情報
<https://www.jart.jp>

2026 No.611

11 / 1

発行所 公益社団法人日本診療放射線技師会

〒108-0073 東京都港区三田1-4-28
三田国際ビル22階

TEL. 03-4226-2211 FAX. 050-3153-1519



第42回日本診療放射線技師学術大会 第33回東アジア学術交流大会 開催される(ハイブリッド開催)

2026年9月11日(金)から13日(日)までの3日間、山形国際交流プラザ 山形ビッグウイングにおいて、第42回日本診療放射線技師学術大会ならびに第33回東アジア学術交流大会(EACRT)が開催されました。公益社団法人日本診療放射線技師会の主催、一般社団法人山形県放射線技師会の共催の下、「新たな潮流、紡ぐ灯 〜人とAIがもたらす放射線技術の未来〜」をテーマに、関係者を含め1,400人を超える方々を山形の地にお迎えし、現地開催とオンデマンド配信(配信は11月30日まで)により実施しました。

開会式では、上田克彦会長による鐘打を合図に大会が開幕しました。来賓として、山形県や山形市をはじめ、衆議院議員の遠藤寛明氏、畦元将吾氏など、関係各方面から多くの方々にご臨席いただきました。また国際放射線技師会(ISRRT)をはじめとする海外の関係団体からも来賓を迎え、国内外の交流を感じさせる開会式となりました。

続いて50年・30年永年勤続表彰、社会活動表彰(江間賞)、学術奨励賞などの表彰が執り行われ、ISRRTによるバッジセレモニーも催されました。



会長講演

プログラムでは、上田会長による「人口減少社会と地方医療の将来」と題した会長講演をはじめ、日放シンポジウム、承認学会企画、山形県放射線技師会によるYGART企画、一般演題(口述発表、eポスター発表)など、多彩な企画が展開されました。一般演題では400題近い



鈴木大会長



バッジセレモニー



開会式



来賓の方々



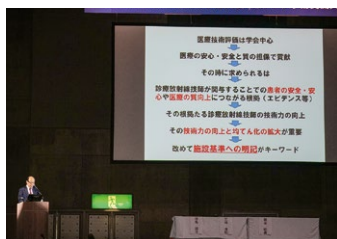
海外からの来賓の方々

エントリーがあり、AI、医療DX、画像診断、放射線治療、被ばく管理、医療安全、教育、人材育成など、幅広いテーマについて発表がなされ、活発な討議が行われました。



eポスター発表

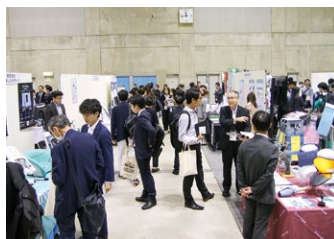
日放シンポジウムでは、診療報酬政策、STAT画像所見報告、医療被ばく安全管理、サイバーセキュリティ、人材育成、放射線安全管理など、現在の医療現場が直面する課題が取り



診療報酬政策立案委員会



医療安全対策委員会



企業展示



ランチョンセミナー

上げられました。さらに原子力災害時のリスクコミュニケーション、予防医療、チーム医療、がん緩和医療など、多職種連携や地域医療を意識したテーマも取り上げられました。

また承認学会企画では、Ai（死亡時画像診断）、手術支援画像技術、AI画像診断支援と画像診断管理、医療被ばく低減、原子力災害対応、診療放射線技師教育など、関連学会との連携を生かした企画が行われました。



ハンズオンセミナー



情報交換会



日本放射線公衆安全学会



放射線管理士分科会・日本放射線力アップセリング学会

YGART企画も本大会の大きな特色となりました。「山形から世界へ」と題した特別講演では、東日本重粒子センターにおける重粒子線治療の軌跡と展望、ナスカ地上絵を題材とした画像判読とAI分析による新たな研究が紹介されました。この他、「救急撮影の極意」「こどもにやさしい医療をデザインする」など、救急医療、小児医療、医療安全、タスク・シフト/シェア、地域医療、乳房画像といった幅広いテーマが取り上げられ、山形県の医療課題から最新の画像技術まで学ぶ機会となりました。

大会2日目の夜には、山形国際ホテルにおいて情報交換会が開催されました。全国各地および海外から集まった総勢375人の参加者が、山形の郷土料理や全国各地からの地酒などを囲みながら交流を深め、学術的なつながりだけでなく、人と人との絆を育む機会となりました。

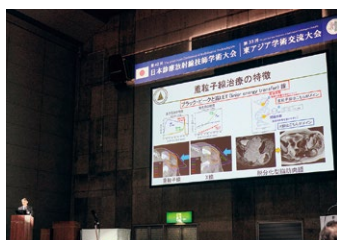
閉会式では、次期開催県である福岡へ大会の「鐘」が引き継がれ、第42回日本診療放射線技師学術大会・第33回東アジア学術交流大会は盛会のうちに幕を閉じました。



eポスター発表優秀賞受賞者



次期開催県への鐘の受け渡し



YGART企画 特別講演1



YGART企画 特別講演2

企業展示やランチョンセミナー、ハンズオンセミナーなども充実し、最新の医療機器やシステムに触れながら、実践的な知識や技術を学ぶ機会となりました。その他、ディスプレイ精度管理セミナーやワクチン筋注行為に関する実技講習会も開催されました。

第33回東アジア学術交流大会では、アジア各国・地域から参加者を迎え、AIを用いた画像解析、MRI、CT、核医学、放射線治療、放射線安全など幅広い分野で24演題の研究発表と意見交換が行われました。

3日間にわたる大会を通し、AI時代における診療放射線技師の役割、安全と信頼、人材育成、地域医療、災害対応、国際連携など、これからの診療放射線技師に求められる課題について再考する機会となれば幸いです。「新たな潮流」を見据えながら、これまで培われてきた知識や技術を「灯」として次世代へ「紡ぐ」という大会テーマを、多くの参加者と共有することができたことを誠にうれしく思います。

最後になりましたが、本大会の開催に当たり、ご参加いただきました皆さまをはじめ、ご講演・ご発表いただいた先生方、関係学会・団体の皆さま、協賛・企業展示にご協力いただいた企業の皆さま、そして大会運営にご尽力いただいた関係者ならびに実行委員の皆さまに、心より厚く御礼申し上げます。（第42回日本診療放射線技師学術大会 大会長 鈴木 幸司）

次期開催の
福岡県診療放射線技師会
塩谷正真大会長

2025年度 永年勤続表彰者

2025年度の永年勤続表彰者が発表されました。おめでとうございます。

50年勤続表彰



北海道	岩手県	宮城県
前田 淳 一尚 勝井 晴彦 岩三 洸司己	小田島 常夫 片野 保雄	阿部 靖彦
	秋田県	新潟県
	二木 賢明 小田 松義 田中 正吉	青柳 利典
	群馬県	
	町田 利彦	

埼玉県	福井県	奈良県	山口県
長妻 徹	宮下 正己	西原 信彦 曾根 八郎 中川 浩二	藤中 正治
千葉県	静岡県	兵庫県	徳島県
伊藤 一夫	船坂 廣治 三輪 則夫 倉田 富雄	新谷 明久	和佐 敦司
東京都	愛知県	岡山県	香川県
天野 善之	加納 宏幸 浦川 幹夫	井上 龍也 沖 和満	保田 定利 山本 邦喜
神奈川県	三重県	広島県	愛媛県
奥山 康男	大西 修	芦田 稔 松浦 栄 智木田 昭	矢野 眞平
山梨県	滋賀県	島根県	福岡県
清水 利彦	濱津 尚就	小林 一郎	神谷 靖治 吉浦 隆雄 小田 敘弘 江上 廣一
石川県	京都府	大分県	
横山 秀樹	笠井 俊文 宮本 要一	舞 博幸	
富山県			
長孝 光			

計 50人

30年勤続表彰



二望輔晴作弘誠一一功仁敦	考 裕猛太利智浩雄 貴	本崎田藤藤山西澤西中則藤	山濱川安後有小杉中田爲遠	樹教子弘由丰	正信由美康晃フ	寺根井島村原	窪関高川奥塩	典彦樹郁桂起一志子彦光彰明	孝文博浩 由賢広幸真孝敏英昌	地水司藤沢藤佐木田川端木清藤	菊清庄佐穴齋比鈴樋布濱高遠	福島県	二文昭司也洋平次学一礼樹幸	慶清茂竹和 耕幸 伸剛雅秀	藤川中藤吉崎田内田崎川毛田	伊黒田首秋島原小山亀川安領飯	北海道
章史男二	篤拓昌	島田中田	三吉島廣	昌夫子志一明之則樹男行生之士誠弼樹一美	政茂操禎謙俊貴昌正隆則偉浩秀 信正陽政	井尻邊村良澤原澤藤堀橋井藤間村根島田津	横野渡中江原秋小後新三新加瀬中関福潮深	之肇也	雅 雅	木川	椽子関	新潟県	雄寿宏	史和文	井木屋	駒佐々土	青森県
一誠	洋	藤辺	佐渡	山梨県	山梨県	山梨県	山梨県	志登紀子	美登紀子	野野	高飯	栃木県	清也	鉄	内地	澤菊	岩手県
昭樹明弘潤司敏弘恒龍夫久浩彦	義真康昌 久和将	井石崎保川島村井邊澤崎邊澤島	金白矢久宮杉寺下渡滝熊渡福中	長野県	長野県	長野県	長野県	治巳貴子久二晃	聖克由総貴雄和	川田嶋 木野林	早町矢埜荒平小	茨城県	子	和	佐々木	秋田県	宮城県
憲朝智充	惠朝智充	邊澤島	邊澤島	二範	英真	岡宮	東京都	夫博慶雅紀	俊 洋	子嵐藤藤井	金五佐安新	群馬県	子宏之保	布邦貴美	滝部藤松	大矢平小	山形県

石川県 圓 篠 延 尾 原 田 圭 宗 司 章 久	乙 高 室 三 小 土 伊 模 今 畑 部 橋 町 品 林 屋 藤 田 井 克 尚 博 雅 洋 大 九 雄 丈 和 彦 宏 之 美 隆 輔 九 大 晴 宏	奈良県 元 淵 慎 介 久 志 浩 文 見 座 昌 平 武 田 地 條 坂 高 川 行 高 裕 保 久 之	林 由 佳 子 広島県 山 織 三 住 西 川 中 西 森 加 小 大 下 田 好 吉 丸 上 島 江 本 藤 野 出 裕 健 義 浩 英 真 健 亨 雅 知 美 治 海 信 治 司 雄 文 章 士 薫 也	徳島県 森 上 林 雄 野 一 史 誠 誉 一	香川県 三 石 林 岡 森 小 木 川 本 本 一 大 一 作 章 和 慶 浩 一	上 川 満 黒 酒 重 坂 岩 江 辻 伊 南 西 木 長 谷 川 尾 田 中 園 木 井 森 口 本 田 佐 出 田 吉 尾 憲 雅 裕 英 昭 慎 太 博 康 啓 亮 哲 浩 泰 浩 司 子 樹 郁 宏 司 郎 義 範 介 平 也 如 茂 生 二 尚	田 野 中 山 高 矢 池 宮崎県 山 野 地 雅 弘 美 菊 給 絵	中 田 川 澤 木 野 田 幸 誠 一 恵 二 二 順 理 祐 龍	鹿児島県 川 野 聖 也 藤 坂 智 史 郎 前 田 健 一 朗 吉 村 洋 啓 一 朗 平 本 啓 啓 郎 四 田 夫 勇 樹 浮 川 伸 秀 田 大 西 秀 大 迫 原 秀	佐賀県 江 頭 達 成 輝 一 一 寿	長崎県 福 伊 智 輝 田 藤 淳 一 佐 木 陽 一 永 野 和 寿	大分県 大 谷 紀 夫 野 村 和 孝 藤 原 誠 豊 土 稗 友 紀	熊本県 和 田 誠 次
--	--	--	---	---	---	--	---	---	--	----------------------------------	--	--	-----------------------

計 312人

社会活動表彰（江間賞）ならびに学術奨励賞受賞者

本会表彰規程より、社会活動表彰（江間賞）は、前年度の社会活動カウントの上位取得者で社会活動の内容などが優れている者とし、地域性を考慮して、特に優れている者10人以内に授与されることになっています。



社会活動表彰受賞者の方々



学術奨励賞受賞者の方々

また学術奨励賞は、積極的な自己研鑽により診療放射線技師としての資質向上に努め、医療および公衆衛生の普及および向上に貢献した者に授与されることになっています。対象者は表彰を受ける前年度の本会生涯教育カウントの取得上位者となっています。

受賞者は下記の通りです。おめでとうございます。

なお、本会表彰規程により、授賞式は第42回日本診療放射線技師学術大会（山形県）において執り行われました。

社会活動表彰	学術奨励賞
秋 本 博 之	米 持 圭 太
三 澤 秀 武	坂 地 勝 行
西 平 守 人	平 野 駿 太
北 川 真太郎	佐 藤 真 悟
細 川 倫 之	松 芳 圭 吾
平 田 薫	今 野 亮 輔
角 田 和 至	荒 井 一 正
待 鳥 尚 子	岩 上 浩 忠
内 田 幸 司	西 垣 徳 氏
佐 原 朋 広	

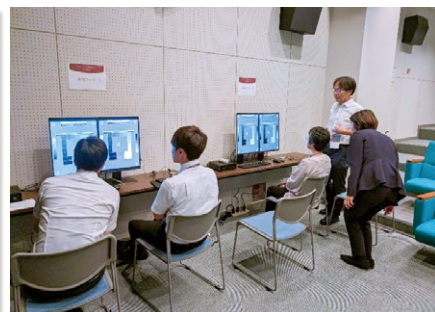
(順不同)

第12回ディスプレイの精度管理セミナー (実技講習会) 開催される

2026年9月11日(金)から13日(日)まで、第42回日本診療放射線技師学術大会会場で、第12回ディスプレイの精度管理セミナー(実技講習会)が、一般社団法人日本画像医療システム工業会(JIRA)との共催により、計5回開催されました。

画像診断用ディスプレイの品質管理ガイドライン(JESRA TR-0049⁻²⁰²⁴)が制定され、これまで以上に画像診断に使用するディスプレイの選択・品質管理が重要になってきていることから、本セミナーは、e-ラーニングで学んだことを基礎に、最新の品質管理の方法について実機を使用して学んでいただくことを目的に開催されています。

本セミナーには21人が参加し、この実技セミナー受講を目的に学術大会に参加された方もおられました。開講式では、本会の江端清和業務執行理事から動画によるあいさつの後、JIRAの前田委員長による「ディスプレイの基礎について」の講義が行われました。



続いて、各メーカーの方々が実機を使用した実技講習を実施しました。講習では、「環境光の影響/階調比較」「モニタ品質管理のデモンストレーション/自分で操作」「質疑応答」といった内容で、トータル90分の講習会が実施されました。

今回は時間的にも余裕があり、受講された方々は実機を目の前にして、マンツーマンで指導を受けられたため、とても分かりやすかったとの感想が多く寄せられ、大変好評でした。

今回も、JIRAならびに各メーカーの皆さまのご協力により、ディスプレイの品質管理について理解を深める、充実した実践的なセミナー開催となりました。

第33回東アジア学術交流大会(EACRT) 開催される

2026年9月11日(金)から13日(日)まで、第42回日本診療放射線技師学術大会が山形市の山形ビッグウイングで開催され、第33回東アジア学術交流大会(EACRT)が併催されました。会期中にはEACRT代表者会議が行われ、日本・韓国・台湾の3カ国の代表者が、各国の現況と今後の交流について意見を交わしました。

9月12日(土)にはEACRT Sessionが設けられ、発表から質疑応答まで全て英語で行われました。全24演題が3セッションに分かれて発表され、各国の研究成果や臨床での取り組みについて活発な意見交換が行われました。マカオからは救急医療における診療放射線技師の貢献が報告され、脳卒中診療に関する発表では各国の現況を比較することで、それぞれの特色や取り組みを知る貴重な機会となりました。関心の高かったAI分野では、台湾における医療AIモデルの活用をはじめ、ベトナムや韓国からも報告があり、国による環境や関心の違いが見受けられました。またシンガポールからは、国主導による基準の

策定や線量限度、医師の線量管理に関する課題が報告され、制度や放射線防護に対する考え方の違いも共有されました。

日本からは3演題の発表があり、いずれも学部学生による発表でした。学生の段階から英語で研究成果を発信し、海外の参加者と意見を交わす姿は大変頼もしく、今後の国際交流の広がりを期待させるものでした。

本セッションを通じ、国や地域、医療環境が異なっても、より良い医療を患者に提供するという目標は共通していることを改めて感じました。今後もEACRTが、各国の診療放射線技師が互いに学び合い、次世代を担う人材が国際交流を経験できる場として、さらに発展することを期待します。



令和8年度 診療放射線技師職域団体との懇談会 開催される (Web開催)

2026年9月19日(土)、公益社団法人日本診療放射線技師会は「令和8年度 診療放射線技師職域団体との懇談会」をWeb形式で開催しました。全国の国立・公立・私立大学病院をはじめ、日本赤十字社、済生会、地域医療機能推進機構など、さまざまな職域を代表する診療放射線技師関係団体の代表者と、本会役員が出席しました。

冒頭、上田克彦会長からあいさつがあり、続いて本会の令和8年度事業計画の進捗状況および「JART Vision 2040」の経過が報告されました。本年度は、入会促進と組織基盤の強化、タスク・シフト/シェアの定着と安全運用、医療DXの推進、生涯教育の充実などを重点的に進めています。

さらに第43回日本診療放射線技師学術大会、生涯教育ラダー、会員無料コンテンツ「JART Plus」、診療放射線技師損害賠償責任保険、会員情報システム、甲状腺簡易測定研修、新卒学生の求人募集など、本会の取り組みについて担当役員から説明が行われました。

後半には、各職域団体が抱える課題や要望について意見交換が行われ、現場の状況や今後の課題を共有する貴重な機会となりました。本会では、今後も職域団体との連携を一層深め、診療放射線技師を取り巻くさまざまな課題の解決と、職能の発展に向けた取り組みを進めてまいります。

国家試験日程決まる

第79回診療放射線技師国家試験の施行について、2026年9月1日付で厚生労働省から報告がありました。

試験期日は2027年2月18日(木)、試験地は、北海道、宮城県、東京都、愛知県、大阪府、広島県、香川県、福岡県です。試験科目は、基礎医学大要、理工学・放射線科学、エックス線撮影機器学、エックス線撮影技術学、診療画像検査学、画像工学、医療画像情報学、核医学診療技術学、放射線治療

技術学、放射線安全管理学、医療安全管理学です。合格発表は2027年3月23日(火)午後2時です。なお、試験に関する手続きおよび問い合わせ先は以下の通りです。

「診療放射線技師国家試験運営本部事務所」

〒135-0063

東京都江東区有明3-6-11 TFTビル東館7階

TEL: 03-5579-6903

診療放射線技師のためのフレッシューズセミナー 開催報告

群馬県

一般社団法人群馬県診療放射線技師会 教育部長 米持 圭太

2026年7月26日(日)、群馬県立県民健康科学大学多目的ホールで、「診療放射線技師のためのフレッシューズセミナー」を開催しました。当日は群馬県内の医療機関に勤務する新人診療放射線技師13人が参加しました。

本セミナーでは、新プログラムの講義動画やグループワークを軸としながら、従来プログラムから「エチケット・マナー」「医療コミュニケーション」の講義、さらに「群馬県診療放射線技師会活動紹介」を加えた構成としました。医療従事者に不可欠な医療安全やマナーに重点を置いた講義を展開し、新人としての姿勢や知識を再確認する機会となりました。

中でもグループワークの科目では、終始和やかな雰囲気の下で笑顔や活発な発言が絶えず、大いに盛り上がりました。課題を進めていく中で、異なる職場に身を置く同世代の仲間と打ち解け、親睦を深め合える絶好の交流の場となったと感じ



ております。ここで得られた横のつながりや連帯感は、今後の社会人・医療人生活において大きな支えとなるはずです。

参加者にとっては、医療従事者としての基礎を固めるとともに、現場で役立つ知識を習得し、同時にかけがえのない仲間を得る貴重な機会となりました。

今後も多くの新人技師にとって、学びと交流の双方において有意義なセミナーとなるよう、一層の充実を図ってまいります。

大分県

公益社団法人大分県放射線技師会 学術調査・福利厚生理事 黒田 亮

2026年8月1日(土)、大分市コンパイルホールで2026年度フレッシュャーズセミナーを開催し、県内4施設から6人の新人診療放射線技師が参加しました。本会では、新人技師が安心して日々の業務をスタートできるよう、実務に欠かせない基礎知識の習得と、施設を越えた横のつながりを築くこと、の2つの目標を掲げ企画しました。第一部の講義では、「医療安全」「感染対策」「医療コミュニケーション」「被ばく低減」という実務に直結する4つの重要テーマについて深く学び、受講者は真剣なま

なずして熱心にノートをとっていました。続く第二部のグループワークでは、他己紹介や思考ワーク、危険予知トレーニング(KYT)を実施し、他施設の同期と積極的に意見を交わしながら課題に取り組み、会場は終始笑顔と活気に包まれました。参加者からは「他施設の同期と悩みを共有できて心強かった」「楽しく実践的に学べた」といった声が聞かれました。本セミナーでの学びと育まれた強い絆が、今後の日々の糧となり、地域医療の未来を支える大きな成長へとつながることを期待しています。



兵庫県

公益社団法人兵庫県診療放射線技師会 組織理事 岡村 佳明

2026年8月8日(土)、新人診療放射線技師を対象とした「診療放射線技師のためのフレッシュャーズセミナー」を開催し、23人が参加しました。

本セミナーは、従来の「人材育成」という観点に加え、参加者と技師会とのつながりを構築し、技師会活動への理解と親近感を深め、入会促進につなげることを目的として実施しました。

今回は、JARTから提案された新たなプログラムを採用し、他己紹介、コンセンサスゲーム、危険予知トレーニング(KYT)など、グループワークを中心とした内容で実施しました。さらに、これまで兵庫県で実施してきた「気管支解剖」「胸部単純写真」「病気の理解(脳・腹部)」の講義も組み合わせ、新日プログラムを取り入れたハイブリッド形式で開催しました。

参加者は初対面同士でも積極的に意見を交わり、和気あいあいとした雰囲気の中でグループワークに取り組みました。知識の習得だけでなく、他者の意見を聞き、自分の考えを伝えることで、チーム医療に必要なコ

ミュニケーションや協調性を実践的に学ぶ機会となりました。

またセミナー終了後には情報交換会を開催し、12人が参加しました。新人技師と技師会関係者が直接交流することで、施設や地域を越えたつながりを築く機会となり、技師会をより身近に感じてもらう有意義な時間となりました。

今回の開催を通じて、参加者同士の交流に加え、技師会との接点をつくるという目的も達成できたと考えています。今後も本セミナーを通じて、新人技師の成長を支援するとともに、技師会活動への参加につながる機会を提供していきたいと思っています。



医療安全推進週間の実施について

厚生労働省では、2001(平成13)年度より毎年11月25日(いい医療に向かってGO)を含む1週間を「医療安全推進週間」と位置付け、医療安全対策に関し、医療関係者の意識向上、医療機関や医療関係団体における組織的取り組みの促進などを図るとともに、国民の理解と認識を深めることを目的とし、医療安全対策の推進を図り、さまざまな事業を実施しています。

本年度も2026年11月22日(日)から11月28日(土)までを「医療安全推進週間」とし、医療安全対策の普及・啓発活動を全国的に実施します。本会も後援団体となっています。

詳細は、厚生労働省のホームページ(以下URL)で紹介されています。

- ・本年度の「医療安全推進週間」について；

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuu/iryuanzen2026.html

- ・これまでの「医療安全推進週間」について；

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuu/i-anzen/iryuanzennotorikumi_h31ikou.html

INFORMATION

第2回 **第43回日本診療放射線技師学術大会 (43rd JCRT)**
第14回アジア放射線治療シンポジウム (14th ARTS)

福岡への道 Go To FUKUOKA

実行委員長 **小林 幸次**
(九州大学病院 医療技術部放射線部門)

会場紹介 ～福岡国際会議場とその周辺～

皆さまをお迎えする第43回日本診療放射線技師学術大会の会場は、福岡市博多区にある福岡国際会議場です。福岡県で初めて開催される日本診療放射線技師学術大会。全国の皆さまにとって「アクセスしやすい学会」と感じていただけるのではないかと思います。

■ 会場アクセス

福岡国際会議場の大きな魅力の一つは、そのアクセスの良さです。

福岡空港、博多駅のいずれからも、地下鉄やバスなどの公共交通機関を利用して20～30分程度で会場へ到着することができます。

福岡は空港と市街地が近接している全国でも珍しい都市であり、遠方からお越しの方でも移動の負担が比較的少ないことが特徴です。

「移動に時間や体力を取られず、学会に集中できる」

そんな会場環境も福岡大会の魅力の一つではないでしょうか。

私が長年暮らして感じるのは、福岡が都市機能と暮らしやすさのバランスが取れた街だということです。

■ 学会の合間に楽しめるスポット

会場周辺や博多エリアには、少し空き時間ができた際に立ち寄ることができる場所もあります。

ベイサイドプレイス博多：博多湾に面した複合施設で、海を眺めながらゆったりとした時間を過ごすことができます。

博多ポートタワー：ベイサイドプレイス博多に隣接しており、福岡市街地や博多湾を一望できる展望施設です。

櫛田神社：博多祇園山笠で知られる博多の総鎮守であり、福岡の歴史や文化を感じられる名所です。私にとっても、結婚式を挙げた思い出深い場所です。

キャナルシティ博多：ショッピングや飲食店、映画館などを備えた大型複合施設です。館内では噴水ショーも行われており、福岡を代表する観光スポットの一つとなっています。

中洲・屋台エリア：福岡を代表する風景の一つです。ラーメンや焼き鳥をはじめ、多彩な味を楽しむことができます。

福岡の魅力をご紹介する連載ではありますが、実は私は福岡出身ではありません。私は山口県で生まれ育ちましたが、診療放射線技師を目指して福岡の養成校に進学して以来、そのまま福岡に定住しています。今では第二の故郷と感じる大切な場所になっています。

また日本診療放射線技師会の上田会長とは、高校・短大の先輩後輩というご縁があります。振り返れば多くの人との不思議な縁に導かれながら、今日まで診療放射線技師として歩んできたように感じています。

私はアニメやゲームが好きですが、観光やグルメについて特別詳しいわけではありません。そのためこの「福岡への道」では、実行委員会メンバーそれぞれの視点から福岡の魅力をお伝えしていければと思っています。

今後の「福岡への道」では、大会準備の様子だけではなく、福岡の食文化や歴史、観光スポットなども交えながら、開催までの道のりをご紹介していく予定です。

2027年9月、全国の診療放射線技師の皆さまを福岡の地でお迎えできるよう、実行委員一同準備を進めてまいります。

次回もどうぞお楽しみに。

INFORMATION



ベイサイドプレイス博多と博多ポートタワー



櫛田神社



キャナルシティ博多



中洲・屋台エリア



道をひらく光となれ

～志と革新が導く放射線診療の新時代～

第43回 日本診療放射線技師学術大会

The 43rd Japan Conference of Radiological Technologists

JARTスローガン ▶ 安全と信頼、診療放射線技師の使命と責任を果たそう

第14回 アジア放射線治療シンポジウム

The 14th Asia Radiotherapy Symposium (ARTS)

2027 9/25^{SAT} ▶ 26^{SUN}

会場

福岡国際会議場
(現地開催 + オンデマンド)

会長: 上田 克彦
公益社団法人
日本診療放射線技師会 会長

大会長: 塩谷 正貴
公益社団法人
福岡県診療放射線技師会 会長

主催: 公益社団法人 日本診療放射線技師会

共催: 公益社団法人 福岡県診療放射線技師会

後援: 厚生労働省 (予定) / 福岡県 (予定) / 福岡市 (予定) / 公益社団法人 日本放射線技術学会

大会事務局 公益社団法人福岡県診療放射線技師会
〒812-8582 福岡市東区馬出 3-1-1 九州大学病院 医療技術部 放射線部門内
TEL: 092-642-5801 (MR 検査室) Email: 43jcrt@gmail.com

運営事務局 株式会社日本旅行 九州法人営業部
〒812-0007 福岡市博多区東比恵 1-4-10 S-GATE FIT 東比恵 3 階
TEL: 092-451-0606 FAX: 092-451-0550 Email: jcrt43@nta.co.jp



<https://www.jcrt43.com>

「当たり前」が変わる時代に

シリーズ連載
series serialization

五感 — five senses

今年の夏も、とにかく暑かった。「昔も夏は暑かったよ」と言いたいところですが、最近の暑さは、どうもその一言では片付けられないように感じます。猛暑、豪雨、線状降水帯——。「異常気象」という言葉を耳にすることも、珍しくなくなりました。考えてみれば「異常」と呼んでいたものが、いつの間にか「日常」になりつつあるのかもしれない。

そしてそれは、医療の世界でもひとごとではありません。災害が起これば医療機関も被災します。停電や断水、交通網の寸断が起これば、いつも通りの検査ができるとは限りません。暑さによる体調不良で搬送される患者さんが増えれば、医療現場の負担も大きくなります。私たち診療放射線技師も、「いつも通り」が続くことを前提にはできない時代になってきたのかもしれない。では、そんな時代に必要なものは何でしょう。最新の装置でしょうか。AIでしょうか。災害に強い設備でしょうか。もちろんどれも大切です。でも、それと同じくらい大切なのが「変化に気付き、考え、行動できる人」ではないかと思っています。普段と違う患者さんの様子に気付く。いつもの手順が使えなければ、別の方法を考える。自分の職種だけでは対応できなければ、他職種に声を掛ける。そこではマニュアルに書か

れている知識だけではなく、周囲を「見る」、声を「聞く」、変化を「感じる」といった、まさに私たちの「五感」が問われます。

地球環境が変われば、社会も変わる。社会が変われば、医療も変わる。そして医療が変われば、診療放射線技師も変わらなければなりません。ただし、「変わる」ということは、これまで培ってきたものを捨てることではないと思います。放射線を安全に扱うこと。質の高い画像を提供すること。患者さんの不安に寄り添うこと。そうした私たちの根っこは大切にしながら、環境や社会の変化に合わせて、新しい役割を引き受けていく。強いということは、変わらないことではなく、変化に合わせてしなやかに変われること。これは自然界にも、組織にも、そして私たちの仕事にも言えることなのかもしれません。

これから先、気候も医療も、今まで経験したことのない変化が待っているでしょう。そんな時代だからこそ、周囲の変化を感じ取る「五感」を磨き、自分で考え、一歩動ける診療放射線技師でありたいものです。「昔はこうだった」ではなく、「これから、どうする?」そう考えられる人が、これからの医療を支えていくのだと思います。

(文責：柳澤 直樹)

11月・12月の講習会などスケジュールのご案内

INFORMATION

- 診療放射線技師のための調査研究スキルアップセミナー : Web開催 2026年12月14日(月)
- 放射線取扱主任者定期講習 : 東京 2026年12月18日(金)
- がん対策委員会 Web セミナー : Web開催 2026年12月20日(日)
- STAT 画像所見報告セミナー : Web開催 (第1回) 2026年11月12日(木)
(第2回) 2026年12月22日(火)
- 認定資格試験 : 全国のCBTテストセンターのパソコンで試験を実施 (テストセンター一覧: <https://cbt-s.com/examinee/testcenter/>)
2027年3月7日(日)まで

[e-ラーニング (ストリーミング方式)]

- 医療放射線安全管理責任者講習会 2027年1月24日(日)まで申し込み受け付け
※お申し込み成立の日から2027年3月1日(月)まで何度でも視聴いただけます。
- 医療安全管理者養成研修 2026年11月13日(金)正午まで申し込み受け付け
・ e-ラーニング期間: 2026年11月16日(月)午前10時から2027年1月29日(金)午後1時まで
・ 事前接続確認: 2027年2月6日(土)午後6時から1時間程度
・ 集合研修開催日: 2027年2月7日(日)午前9時から午後5時30分まで(オンライン演習)
※集合研修の受講は、e-ラーニング(35時間)を期間中に修了した方に限ります。
- JART会員向け原子力災害医療基礎研修 (e-ラーニング) 2027年1月17日(日)まで申し込み受け付け(予定)
※右記「被ばく医療研修ポータルサイト」より申し込みください。 <https://retms.nirs.qst.go.jp>
※申し込みの際、JART会員番号の記入や個人情報の取り扱いなどについて注意事項がありますので、「JART会員向けR8年度基礎研修募集要項」を必ずご確認ください。
- 生涯教育 クリニカルリーダー(e-ラーニング)セミナー 2027年1月27日(水)まで申し込み受け付け
生涯教育 マネジメントリーダー(e-ラーニング)セミナー ※お申し込み成立の日から2027年3月3日(水)まで何度でも視聴いただけます。
- 放射線診療に従事する者に対する診療用放射線の安全管理のための研修 2027年1月27日(水)まで申し込み受け付け
※お申し込み成立の日から2027年3月3日(水)まで何度でも視聴いただけます。
- 認定資格の取得を目指す受講生の募集 2027年2月1日(月)正午まで申し込み受け付け
※お申し込み成立の日から認定資格試験終了日前日まで何度でも視聴いただけます。
※本講習会を修了しませんでした、認定資格試験のお申し込みはできません。
- 告示研修(基礎研修) 2027年3月31日(水)まで申し込み受け付け
※お申し込み成立の日から2027年4月30日(金)まで何度でも視聴いただけます。
- 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針オンラインセミナー 2027年3月31日(水)まで申し込み受け付け

※このご案内の公開時に、定員に達して申し込みができない講習会・セミナーがある場合がございますのでご了承ください。

事務所
案内

執務時間: 月曜日から金曜日の午前9時30分より午後5時30分まで。

ただし、土曜、日曜、休日、祝日、創立記念日(7月13日)および年末年始(12月29日~1月3日)は執務致しません。